

難易度
初中級

研究開発活動の強化に役立つ 技術者のための特許の読み方・活かし方 ～内容理解・発想法を中心に、生成AI活用も含めて～

講師	塩谷 綱正 氏	株式会社イーパテント・アクティス 代表取締役社長	
日時	2026年6月24日(水) 13:30～16:30		

研究開発活動において特許情報が有益であることは、古くから指摘されてきました。しかし実際には、多くの技術者が公報を「文字の羅列」と感じ、難解なものとして敬遠しがちです。その結果、特許情報は高いポテンシャルを秘めながらも十分に活用されていないのが現状です。

本セミナーでは、元・技術者である講師が、技術者が成果を生み出すための特許の「読み方」と「活かし方」を実践的にお伝えします。加えて、近年注目される生成AIを活用した特許情報の扱い方についても紹介します。受講を通じて特許情報の活用力を高め、研究開発活動の強化につなげていただけます。

<対象>

- 研究開発部門の技術者への、公報の説明や活用支援を担当している知財部門の方
- 特許情報を開発業務にどう活かせばよいか悩んでいる研究開発部門の方

【解説内容】(予定)

● 技術者視点で理解する、公報の構造

- － 公報の構造を図解で捉える
- － 公報には3種類の性質がある
- － 公報は技術者のためにある

● 技術者ならではの効率的な特許の読み方

- － 最初から全部読もうとするから挫折する
- － 当たりをつけて、選んで深める
- － “発明の芯”を抜き出す

● 戦略検討に活かすための捉え方

- － フレームワークを使いこなす
- － 示唆を引き出す、雲・雨・傘の思考法
- － フレームワークは動的に考える

● 強い技術を生み出すための発想法

- － 市場・顧客・現場の要請を捉えたか？
- － 公報ドリブンで良い課題設定を
- － 強い技術とはトレードオフを解消するもの

● 生成AIをパートナーとして活用する

- － 個別特許を理解する (Copilot)
- － 複数特許を利用する (NotebookLM)
- － アイデアを発想する (ChatGPT)

● IPランドスケープという次の一手

- － パテントマップは技術ブラウザだ
- － 読んで活かしてIPランドスケープ実現を

テキストはPDFで共有させていただきます



LIVE



ライブ配信だからその場で講師に質問可能 &
アーカイブ配信も実施 (各講義翌日から2週間)

・聞き逃しても安心! 期間内はなんどでも。
・再生速度を変更可能!